

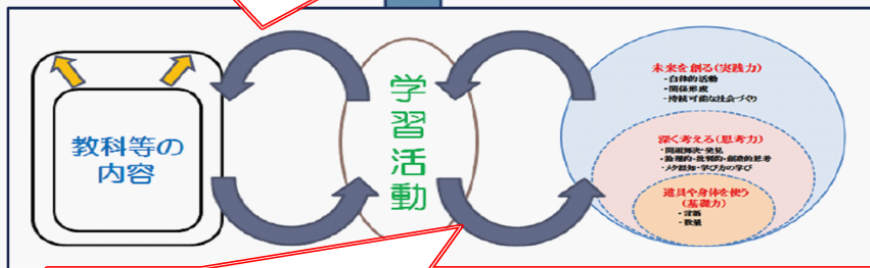
G L 育成に向けた教科指導に係るマスタープラン《ポイント》

気仙沼高校

◎「学びの質を高める」意識によるデザイン

既有的の資質・能力を引き出す学習活動で、教科等の個別の知識を習得。さらにそれらを結びつける活動で概念的な知識理解へと拡大。

図研「資質・能力を育成する教育の在り方に関する研究報告書1」より



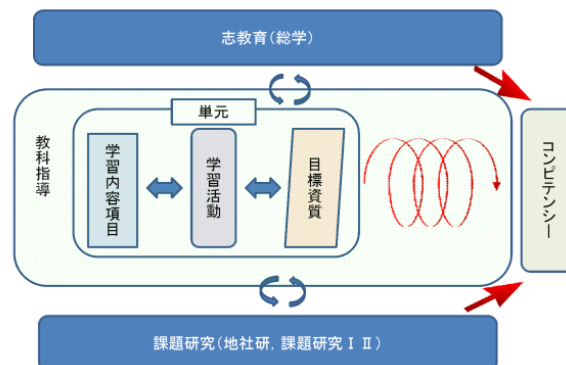
内容を活用する学習活動等によって、その内容を活用できるもの、次の学習活動に転移できるものにする。学び方も自覚させる。

◎今年度の授業改善テーマ

単元のデザイン(単元の指導と評価の計画)

- ①わらい明確化の視点
 - ・どんな単元目標を設定するか
 - ・本単元で付けたい資質・能力とビッグアイデアの吟味
 - ・単元のパフォーマンス課題の設定の仕方
- ②生徒の実態把握の視点
 - ・単元構想のための実態把握
 - ・その結果を単元構想にどう生かすか
- ③単元の導入と終末を固めるという視点
 - ・単元目標の示し方や導入の学習活動のあり方
 - ・終末の学習活動のあり方
- ④単元を通したよりよい計画の視点
 - ・生徒が主体的に追究していける計画
 - ・目標に叶う学習活動と教材の配置
 - ・目標の達成状況を見取る単元終末の活動に直結する計画
- ⑤学習評価の視点
 - ・①～④と連動する単元評価計画
 - ・より確かな観点別評価のあり方
 - ・パフォーマンス評価とルーブリック

◎ 本校のコンピテンシー育成(イメージ)



本校の主体的・対話的で深い学習の実現を図る教科指導の在り方

気仙沼高等学校

学力の階層	I		II		III		
	知っている(記憶)		わかる(理解)		使える(活用)		
目標の分類	個別・固有		適用 (特定解法の適用)	総合A (非特定解法による解決)	総合B (知・技の総合化, 納得解)		
主たる目標	事実的知識・個別的スキル		概念的知識	ビッグアイデア(教科ならではの見方や考え方, 原理)	教科を横断する見方や考え方		
	(知識・技能)		(概念的知識と思考力)	(高次の思考力等)	(汎用的スキル) (コンピテンシー)		
カリキュラムの種類	内容項目型カリキュラム (個別の授業レベル)		内容項目型カリキュラム (単元レベル)	内容項目型カリキュラム (単元レベル)	らせん型カリキュラム(単元間, 教科間, 課題研究活動との間)		
主たる学習活動	通常授業の改善		適用問題の演習等による熟練	単元の総合課題へのトライ	自らの課題への挑戦		
主となるタイミング	単元を単位とする教科指導						
	単元の導入・展開時		単元の終末時	単元の終末時	課題研究活動		
		(どちらかを選択, やがては総合へ)				課題研究活動全体	
学習評価		通常の観点別評価			パフォーマンス評価を含む観点別評価		
主となる 評価観点	知・技	○		○			
	思・判・表			○		○	
	関・意・態			○		○	
学習評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> 客観テスト(穴埋め, 選択問題) 短文記述問題 簡単な実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 適用問題(学習事項を当てはめて解ける問題) 	<ul style="list-style-type: none"> 自由度のある記述問題 図による描写問題 知識同士のつなぎ合わせを表現させること 知識のつなぎ合わせを重視した客観問題 パフォーマンス評価 パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス評価(ルーブリック活用)と通常評価の組み合わせ 日常的なパフォーマンス(表現)に基づく評価(EX:ポートフォリオ評価) 		
改善・開発のポイント		<ul style="list-style-type: none"> □単元及び各授業の目標を明示しているか。 □単元及び各授業の振り返りを位置付けているか。 □既存の知識や能力を引き出す活動等の単元導入時の工夫はあるか。 □終末の「適用」, 「総合A」を選択し, 展開時の演習法を工夫しているか。 □授業を家庭学習と連動させているか。 □教える場面と考える・活動する場面をハッキリ分けているか。 □学習者の学習成立プロセスに基づく展開になっているか。 □内容項目の重み付けを工夫しているか。 □章末を充実させるため, 説明を精選するなど時間の工夫をしているか。 □地域・日本・世界の各々につなげる授業の工夫はあるか。 □学習形態としてAL手法を活用しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> □章末における熟練の計画を吟味しているか。章末問題や理科の章末探究活動が出发点になる。 □章末に生徒の振り返りが配置されているか。 □生徒は, 学んだ内容を自分の言葉で説明できるか。 □生徒は, 抱いた疑問を自分の言葉で説明できるか。 □生徒は, 類似問題に転移できるか。 □「知・技」の熟練にとどまらず, 「思考力等」へと発展させる工夫があるか。 □適する単元から, 総合による熟練に移行させようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> □「思考力等」を育てるAL計画になっているか。 □単元課題(パフォーマンス課題)を設定したか。課題は適切か。 □「主体的な学び」になっているか。 □「対話的な学び」にする工夫はあるか。 □「深い学び」になっているか。 □単元課題への取組の評価は適切か(パフォーマンステストにすることも)。 □理科では, 章末の探究活動をミニ課題研究化する工夫があるか。 □個別のスキルの訓練になっているか。個別のスキル(EX:仮説の立て方)の訓練を積み重ねてもコンピテンシーは育成できない。しかし, 本校には課題研究活動という総合化の機会があることから, 個別のスキルの訓練にも大きな意味がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ※地域社会研究, 課題研究 I・II, 志教育の各計画による。 □「主体的で, 対話的な, 深い学び」が実現できている計画か。 □「主体的で, 対話的な, 深い学び」に対する形成的評価による適切な指導ができているか。 □「主体的で, 対話的な, 深い学び」の実現を適切に評価しているか。 □コンピテンシーは育成できているか。 □教科と課題研究活動の連携はとられているか。 □課題研究活動の事業としての評価が適切か。改善に活かしているか。 		

「今求められる学力と学びとは」石井英真著(2015)を参考に作成

◎階層で捉える学力

◎単元指導計画の重視

◎課題研究活動にリンクさせる教科指導

◎単元の終末の重視